

**「海外子会社の経営を担う人材を養成する大学院教育プログラム」
2017年度開講科目概要（27科目：112回）**

授業科目	担任者(所属)	授業概要	回数
実践基礎教育プログラム(7科目:28回)			
異文化コミュニケーション1	久保田 真弓(関西大学総合情報学部教授)	異文化コミュニケーション分野の理論について言語、非言語コミュニケーション、価値観、宗教観、企業文化、倫理観の視点から学習し、異文化コミュニケーションの現象を多角的に理解・分析する視点を身に付ける	4
異文化コミュニケーション2	久保田 真弓(関西大学総合情報学部教授)		4
経営者のためのシンキングチャートの活用	西尾 三津子(関西大学インストラクショナル・デザイナー)	経営に関する知識や情報、経験を頭の中で整理し視覚化させるために「シンキングチャート」を活用して、思考力を高めるための手立てとする。	4
経営戦略	吉田 史朗 (S&Gビジネスディレクション株式会社代表コンサルタント)	海外進出の目的を、二つの経営戦略、すなわち企業戦略(成長戦略)的視点と競争戦略的視点から、今注目されている代表的な経営戦略論によるアプローチや、様々な企業事例等を通して明確にする。	4
マーケティング戦略	嶋 えりか(中小企業診断士)	マーケティング戦略について、現在世界中で注目が高まっている、イノベーションのための問題解決プロセス技法「デザイン思考」を学習し、主体的判断力や革新的想像力等を修得する。	4
組織・運営戦略	屋代 徳文 (りそな総合研究所コンサルタント、社会保険労務士)	グローバル視点で立案した経営戦略を実行していく上で、どう組織を編成し動かしていくのか。どう人材を配置、育成しパフォーマンスを上げていくのか、そしてどう評価報酬に結び付けていくのかを考える	4
子会社経営で直面する課題(ケーススタディ)	仲本利明(東ブラ・アパディジャヤ元代表取締役社長)	子会社経営でよく直面する課題(人間関係、リスク管理、人事労務問題、子会社と親会社の関係等)について、ディスカッションを通じ、自分の問題としてその解決策を考える。	4
専門教育プログラム(13科目:52回)			
グローバル経済	宮本 勝浩(関西大学名誉教授)	ASEANを中心にして、経済の動きを客観的に把握、理解し、海外子会社を運営する上で必要な世界経済と進出先の国の経済の動向、将来を分析できる能力を、グループワークを通して身につける。	4
ASEAN経済	後藤 健太(関西大学経済学部教授)	ASEANで広がる生産・流通ネットワークの実態と、産業高度化の課題と可能性を、グローバル・バリュー・チェーンの分析枠組みを用い、日系企業の視点から明らかにし、その国際化戦略の策定に必要な能力を養う。	4
ASEAN発展論	北波 道子(関西大学経済学部教授)	アジア経済のダイナミクスを理解し、それに伴う製造業の生産拠点移動など、一定の法則性を理解する。	4
ASEAN法律制度	西澤 希久男(関西大学政策創造学部教授)	ASEANにおいて、海外子会社を運営する際に直面する問題に対応するため、とくに紛争処理及び消費者保護に関する法律に焦点を絞り、各国の法制度の概要、特徴、及び問題点を学ぶ。	4
ASEANの地理・歴史	野間 晴雄(関西大学文学部教授)	ASEANの国々に現地赴任し、海外子会社を運営したり海外で直面する課題を解決したりする上で必要となる、実践的な生活の知恵と現地の人と接するときに必要な知識を学習する。	4
ASEANの宗教・文化	小田 淑子(関西大学文学部教授) 宮本 要太郎(関西大学文学部教授) 小杉 麻李亜(関西大学プログラム講師)	ASEANでは、イスラム教、上座部仏教、ヒンズー教等の宗教が生活の隅々まで影響を与えており、現地の人と接するときに必要な知識を学習する。	4
ASEANの華人ビジネス	吉野 文雄(拓殖大学国際学部教授)	ASEANの国々の経済は華人(華僑)が中心に展開してきていたといってもよい。華人のビジネスのあり方、考え方を理解する。	4
日本の経営思想	田中 一弘(一橋大学大学院商学研究科教授)	日本企業の経営は、江戸時代以来の日本の経営の思想が連続と引き継がれている。現地の方に、それを理解してもらえるように、日本の経営思想の歴史と手法を学習する。	4
海外経営のための企業会計入門	柴 健次(関西大学大学院会計研究科教授)	会計は異文化コミュニケーションの強力なツールであるという視点に立ち、会計の基礎力の養成に力点を置く。ファイナンスの思考回路と会計の思考回路の相違を理解する。	4
海外経営のための管理会計	大西 靖(関西大学大学院会計研究科教授)	企業の経営管理において、必要不可欠な原価計算及び管理会計に関する知識を修得する。	4
海外経営と国際租税法	中村 繁隆(関西大学大学院会計研究科教授)	日本の親法人との取引を題材に、現地国の国内租税法と租税条約の関係を学習し、国際租税法の基本思考を習得する。	4
海外経営のための会計情報の利用	宗岡 徹(関西大学大学院会計研究科教授)	企業での問題がどのように会計情報にされるのかを考察し、逆に会計情報の変化から企業の状況の変化を読み解く。	4
海外展開のためのM&A	牧野 信夫(株式会社 マッキー コーポレーション 取締役CEO)	ケーススタディを通じて、グローバル企業に特有の問題点、組織論、人材活用、リーダーシップに関するトピックに焦点をあてることにより、発展段階毎に必要な人材の資質を理解する。	4
実践応用教育プログラム(7科目:32回)			
海外事業体(子会社)における経営者の責任と役割・コンプライアンス体制	野本 隆(ダイハツ工業株式会社特別顧問)	海外で活躍できる人材の要件をふまへ、経営者・管理者の心得、責任と役割を明確にし、「行動指針」をダイハツの例を参考に学ぶ。コンプライアンスについては、違反防止に向けた体制の整備と行動指針を考え、立案した行動・改善計画等の成果を発信する。	8
海外子会社の経営者として必要な能力	宮本 昭洋 (りそなブルダニア銀行元代表取締役社長)	事例をもとにしたディスカッションを通して、問題点の把握と本質的理解、解決策の模索を行い、経営者として必要な能力について考え、説明する。	4
子会社経営で直面する課題-人事労務政策-	仲本利明(東ブラ・アパディジャヤ元代表取締役社長)	海外子会社で直面する人事労務政策にかかる課題において、経営者としてどのように考え、行動するべきかを事例・ディスカッションを通して考え、説明する。	4
グローバル企業の人材育成	牧野 信夫(株式会社 マッキー コーポレーション 取締役CEO)	グローバル人材の定義・要件設定を行い、それに沿った人材育成を行う組織と教育の在り方を理解する。	4
経営者の戦略的役割	吉田 史朗 (S&Gビジネスディレクション株式会社代表コンサルタント)	経営者としての戦略的役割の中で、特に社員を引っ張る「リーダーシップ」を身に付けること、「経営管理能力」を発揮すること等に焦点を当てる。また、経営判断の基礎となる考え方として、経営戦略、マーケティング戦略、組織運営戦略の3分野に関して、演習を通じて理解を深める。	4
海外派遣者のストレスマネジメント	池見 陽(関西大学大学院心理学研究科教授) 川端 康雄(大阪医科大学 臨床心理士)	海外生活をする上で必要なストレス・コントロール法の獲得。海外で直面する課題を解決する手法を学ぶ。なお、2回分の講義は、集中合宿授業にて実施する。	4
プレゼンテーション・スキルとその活用	西尾 三津子(関西大学インストラクショナル・デザイナー)	プレゼンテーションスキルの活用を通して、設定された課題について他者に分かりやすく説明し、自分の考えを把握する。	4